





審査結果報告書

平成 28 年 2 月 2 日

主 査 氏 名 武 田 啓 

副 査 氏 名 隈 明純 

副 査 氏 名 石 川 信行 

副 査 氏 名 石 川 均 

1. 申請者氏名 : DM13002 飯島 敬

2. 論文テーマ :

Demographics of patients having cataract surgery after laser in situ keratomileusis.

(Laser in situ keratomileusis 術後に白内障手術を要した症例の背景因子の検討)

3. 論文審査結果 :

本研究は Laser in situ keratomileusis (LASIK) 術後に白内障手術を要した症例の背景因子に関する報告である。LASIK は1990年から屈折矯正の有用な手段として広まったため、近年 LASIK を施行した患者が白内障手術を要することが増加している。申請者は LASIK 術後で白内障手術を要した症例を後方視野的に検討し、これまで報告のなかった背景因子について解析した。その結果 LASIK 術後の白内障手術年齢は全体の白内障手術より15歳、眼軸長マッチング群より約10歳若いこと、また男性の率が高いことが分かった。長眼軸眼であることや角膜高次収差の増加がより早く手術を受ける傾向に関与していると考察した。

申請者の研究グループでは初めて LASIK を行うなど当初よりこの手術を手掛けており、また多くの白内障手術が行われていることも本研究が遂行された理由である。このことから新規性、独創性があり臨床的意義の高い研究である。論文および口頭発表は論理的で分かりやすく構成されており、審査員の質問にも関連領域の最新の研究動向を踏まえながら的確に回答を行っていた。

博士論文として十分に価値のあるものと審査員全員一致で判定した。